

大東市埋蔵文化財発掘調査概報

1988年度

1989年3月

大東市教育委員会

は し が き

本市教育委員会では、本年度も67件の発掘届出を受け付け、市内各地で発掘調査を実施しました。その大半は民間事業による宅地開発によるもので、大東市域の住宅地としての便利さが、再評価されつつあることの表れでしょうか。届出の数は年々増加の傾向を示し、それに伴って調査件数も激増しています。

しかし、このような状況のもと、調査担当職員の不足により関係者各位に御迷惑をおかけしていることも事実です。今後、早急に人員の確保、調査体制の整備など文化財行政が円滑に行われるように努力していきたいと思っております。

最後になりましたが市内各地における調査にあたり、御協力頂いた地元の方々を始め関係者各位に厚くお礼申し上げる次第であります。

平成元年 3月31日

大東市教育委員会

例 言

1. 本書は、大東市教育委員会が昭和63年度国庫補助事業として実施した、大東市域各遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は大東市教育委員会技師黒田淳を担当者として、昭和63年4月1日に開始し、平成元年3月31日終了した。
3. 本書の執筆、編集は黒田が行った。
4. 調査及び整理の実施にあたっては、下記の方々の協力を得た。記して感謝する。
石井裕己、石田昌世、大谷総、大山清、北田享子、金弘美、玉本雅己、谷崎光子、辻本智英、中村亘登、野村香枝、広瀬悟郎、深沢吉隆、増田耀子、宮田八重子、森石千枝子、山村俊之、山本裕子、山本芳子、吉田すみ子、吉村早苗。
5. 調査中は各土地所有者、ならびに地元関係者の方々より懇切な御協力を頂いた。また、有益な指導、助言を頂いた大阪府教育委員会を始め各関係機関に対し、厚く感謝の意を表する。

目 次

I	昭和63年度の調査概要	1
II	中垣内遺跡の調査	3
III	北新町遺跡の調査	8
IV	福蓮寺遺跡、福蓮寺古墳の調査	10
V	寺川遺跡の調査	15
VI	三箇遺跡の調査	20
VII	飯盛山城跡の調査	21
VIII	北条遺跡の調査	22

挿 図 目 次

第1図	中垣内遺跡調査区位置図	3
第2図	トレンチ位置図 (NGT88-2)	4
第3図	土層断面図 (NGT88-2)	5
第4図	トレンチ位置図 (NGT88-4)	5
第5図	トレンチ位置図 (NGT88-5)	6
第6図	東壁土層断面図 (NGT88-5)	6
第7図	トレンチ位置図 (NGT88-6)	7
第8図	東壁土層断面図 (NGT88-6)	7
第9図	北新町遺跡調査区位置図	8
第10図	トレンチ位置図 (KSM88-4)	9
第11図	土層断面図 (KSM88-4)	9
第12図	出土遺物実測図 (KSM88-4)	10
第13図	福蓮寺古墳、福蓮寺遺跡調査区位置図	11
第14図	調査区位置図 (FKU88-2)	11
第15図	土層断面図 (FKU88-2)	13・14
第16図	寺川遺跡調査区位置図	15
第17図	トレンチ位置図 (TRK88-1)	16
第18図	東壁土層断面図 (TRK88-1)	16
第19図	トレンチ位置図 (TRK88-2)	17
第20図	東壁土層断面図 (TRK88-2)	17
第21図	トレンチ位置図 (TRK88-3)	18
第22図	土層断面図(1) (TRK88-3)	18
第23図	土層断面図(2) (TRK88-3)	19
第24図	三箇遺跡調査区位置図	20
第25図	飯盛山城跡、調査区位置図	21
第26図	北条遺跡調査区位置図	22
第27図	トレンチ位置図 (HJO88-2)	23

目 次

第1表	昭和63年度57条2・3届出件数月別集計	1
第2表	昭和63年度57条2・3回答・月別集計	2
第3表	遺跡別届出、調査件数集計	2
第4表	中垣内遺跡 (NGT) 調査一覧表	4
第5表	北新町遺跡 (KSM) 調査一覧表	8
第6表	福蓮寺遺跡、福蓮寺古墳 (FKU) 調査一覧表	10
第7表	寺川遺跡 (TRK) 調査一覧表	15
第8表	三箇遺跡 (SNG) 調査一覧表	20
第9表	飯盛山城跡 (IMO) 調査一覧表	21
第10表	北条遺跡 (HJO) 調査一覧表	22

図版目次

図版一	中垣内遺跡NGT88-1 (弥生時代前期溝検出状況)	
	NGT88-3 (弥生時代前期遺構面検出状況)	
図版二	中垣内遺跡NGT88-4 (トレンチNo.1 トレンチNo.4)	
	NGT88-5 (水路検出状況)	
図版三	北新町遺跡KSM88-1 (古墳時代水田) KSM88-2 (近世井戸)	
	KSM88-3 (中世ピット)	
	KSM88-4 (トレンチNo.1 トレンチNo.2)	
図版四	福蓮寺古墳、寺川遺跡、三箇遺跡、飯盛山城跡	
	FKU88-2 (断面A、断面B)	
	TRK88-3 (トレンチNo.1 No.2)	
	SNG88-1 (トレンチNo.1 杭例)	
	IMO88-2 (土壘、櫓列検出状況)	

I 昭和63年度の調査概要

昭和63年度中に、文化財保護法57条2及び3に基づく発掘届・発掘通知は、67件受け付けている。これは前年度と比較して、5件の増加を示している。特に一般民間事業が53件を数え、全体の79%という高い割合を占めている。

届出・通知の土木工事内容から事前に発掘調査を必要としたものは、昭和63年3月末日までに30件を数えた。このうち年度内に調査を実施したものは、17件であった。このうち公共事業に伴うものは3件、残り14件は民間開発事業に係わるものが占めた。

遺跡別にみると、包蔵地面積の広い中垣内遺跡、寺川遺跡、府営住宅建替工事に伴い周辺での公共事業や、民間による開発が増加している北新町遺跡が目立っている。

事前調査を必要とする回答を行っていながら、年度内に調査を実施し得なかったものは2件、届出後未回答案件を合わせると、約13件が調査待ちの状態で年度を越えることになった。

周知の埋蔵文化財包蔵地以外の地域（本市が定めるところの遺跡周辺地域）の土木工事においても、事前に試掘調査を実施し、遺跡の発見に努めている。本年度内には17件の試掘調査を実施し、そのうち埋蔵文化財の存在を確認したものは3件を数えた。予定工事が埋蔵文化財に影響を及ぼすと考えられたものについては、協議の後発掘調査を実施するか、または設計変更により埋蔵文化財に支障の無いように指導した。

第1表 昭和63年度 57条2・3届出件数月別集計

原 因	63 / 4	5	6	7	8	9	10	11	12	平1 / 1	2	3	計
市関係公共事業	0	2	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	7
国・府関係公共事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
関西電力	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	1	6
その他民間事業	9	4	0	7	1	1	12	7	1	0	2	6	53
計	9	6	3	8	1	1	17	8	1	2	2	7	67

第2表 昭和63年度 57条2・3回答・月別集計

回答区分	63/4	5	6	7	8	9	10	11	12	平1/1	2	3	計
発掘調査	0	2	3	2	2	1	1	1	0	2	7	5	30
立会調査	0	2	3	4	4	3	0	0	0	1	1	9	25
慎重工事	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3	7
計	0	5	6	7	7	4	1	1	0	4	8	17	62

第3表 遺跡別届出・調査件数集計

遺跡名	届出件数	①発掘調査	②立会調査	①+②
中垣内遺跡	19	6	7	13
北新町遺跡	15	3	1	4
寺川遺跡	6	6	0	6
寺川古墳群	3	0	0	0
灰塚遺跡	1	0	1	1
三箇遺跡	5	1	1	2
北条遺跡	1	1	0	1
北条西遺跡	1	0	1	1
飯盛山城跡	5	2	2	4
福運寺遺跡	5	1	0	1
鍋田川遺跡	1	0	0	0
西諸福遺跡	1	0	0	0
宮谷古墳群	1	0	1	1
計	64	20	14	34

発掘調査の成果は以下に報告するとおりであるが、なかでも弥生前期の遺構を検出した中垣内遺跡（関西電力東大阪変電所敷地内）の調査や、古墳時代前期の掘立柱建物や水田跡、中世の建物群等を検出した北新町遺跡（府営住宅建替、共同住宅建設に伴う）の調査が目目される。

また、それとは逆に事前着工により発掘調査を実施し得なかった福運寺遺跡、福運寺古墳などがあり、対処の仕方について今後課題を残した。

先にも記したように、今年度の発掘届出・通知の受け付けは67件を数えた。これは前年度の件数（62件）に比較すると、僅

かに増加したに過ぎない。しかし、現在、本市は大阪近郊のベッドタウンとしての役割が大きくなりつつあり、開発も増加し、それに伴い届出件数もさらに増えることが予想される。

本年度の大半は外業調査に費やされた関係もあって、出土遺物の整理が全く不十分に終わったのが実情である。したがって、本書に収録し得なかったものや、出土遺物について説明が不十分であったものもある。今後、機会をみて報告していきたいと思う。

II 中垣内遺跡の調査



第1図 中垣内遺跡調査区位置図

中垣内遺跡では6箇所の調査を実施した。その中でも特に注目されるのは、関西電力東大阪変電所敷地内で実施した1区と3区の調査である。1区では弥生前期から中期の包含層が確認され、前期の溝を検出しており、3区ではピット、土坑などの存在する前期の遺構面を検出している。1959年の調査で前期の竪穴住居跡や杭列が検出された地

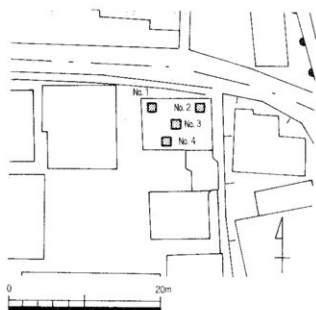
点から南へ50mの場所であり、今回の調査結果を考慮すると、集落の範囲はさらに南と西へ広がるようである。

第4表 中垣内遺跡（NGT）調査一覧表

	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	中垣内5丁目3-1	100m ²	遮断器取替工	5月1日 ～5月8日	弥生時代前期の溝、 弥生前期～中期の包含層、石 器、木製品（鋸、枕、板材）	別途報告
2	中垣内2-793	153.13m ²	個人住宅建設	9月14日	土師器、弥生土器片	本書掲載
3	中垣内3丁目	100m ²	遮断器取替工	10月11日 ～11月30日	弥生時代前期のピット、土坑 前期～後期の土器、石器	別途報告
4	平野屋2丁目397-1他	238.92m ²	工場建設	10月26日 ～12月3日	遺物、遺構なし	本書掲載
5	中垣内2-547-2,4	60m ²	共同住宅建設	11月1日	浄化槽部分 旧水路、土師器、須恵器	本書掲載
6	平野屋2丁目346-1	1694.3m ²	倉庫建設	11月8日	遺物、遺構なし	本書掲載

2区の調査

2区は中垣内遺跡の東縁部に位置し、標高は約8mを測る。住宅建設予定地に4箇所トレンチを設定し、調査を行った。



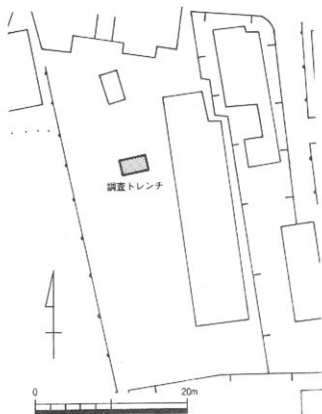
第2図 トレンチ位置図（NGT88-2）

トレンチNo. 1

土層は水平堆積を示す。
約30cmほどの盛土を除去すると、暗黄褐色砂質土、暗褐色砂質土、さらに暗黄灰色砂混じり粘質土が表れる。これらの層には遺物は含まれていない。その下には、土師器小片などの遺物を含む青灰色砂混じり粘質土がある。

トレンチNo. 2

土層は水平堆積を示す。
30cmの盛土を除去すると、遺



第5図 トレンチ位置図 (NGT88-5)

た。調査は浄化槽埋設の掘削深度に合わせてG.L-2.2mまでを対象として行った。

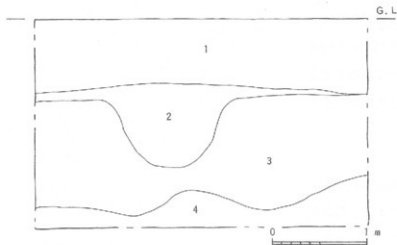
層序

1層は最近の盛土で、約80cmの厚さで堆積している。2層は、旧水路の埋土である暗青灰色粘土で、ヘドロ状になっていた。染付、土師器、須恵器の小片が出土している。3層は、青灰色砂混じり粘質土で約40cmの堆積、4層は黄灰色砂混じり土で、今回の調査で確認できた最下層である。3層、4層からは、遺物の出土はなかった。

遺構・遺物

3層上面で、この層を掘り込んだ水路と考えられる溝を検出している。幅約

1.2 m、深さ40cm、両岸には、長さ1.2mの杭が打ち込まれ、直径約20cmの丸太材が横にして置かれてあった。さらにその外側には、約40cm大のカコウ岩の割石が並ん



- | | |
|----------|--------------|
| 1 盛土 | 3 青灰色砂混じり粘質土 |
| 2 暗青灰色粘土 | 4 黄灰色砂混じり土 |

第6図 東壁土層断面図 (NGT88-5)

だ恰好で置かれていた。水路の護岸施設と考えられるが、割石は一段のみを確認しただけである。水路内からは、染付、土師器、須恵器の小片が出土しているが、染付の中には、最近のものも含まれていることから、新しい水路と考えた方がよさそうである。遺物はいずれも小片であるため図化できなかった。

6区の調査

6区は中垣内遺跡の西縁部に位置しており、標高は約4mを測る。倉庫建設部分の2箇所トレンチ調査を実施した。

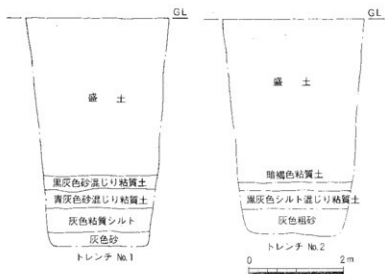
トレンチNo. 1

掘削の結果、盛土が約3.3m堆積していることが確認された。盛土の下は、黒灰色砂混じり

粘質土、以下青灰色砂混じり粘質土、灰色粘質シルト、灰色砂層が堆積している。遺物は黒灰色砂混じり粘質土から、近世の磁器が出土している。

トレンチNo. 2

トレンチNo. 1と同様深く、約2.7m堆積している。その下には暗褐色粘質土があり、さらにその下層には黒灰色シルト混じり粘質土が堆積している。約GL-4mまでシルト混



第8図 東壁土層断面図 (NGT 88-6)



第7図 トレンチ位置図 (NGT 88-6)

じり粘質土が堆積し、その下には、灰色粗砂が堆積している。遺物は、暗褐色粘質土から磁器片が出土している他は、出土していない。

小結

中垣内遺跡は、従来弥生前期の集落跡として理解さ

れてきた遺跡である。1区と3区の調査では、その範囲がさらに南と西へ拡大することが確認できた。

また同遺跡内では、これまでに古墳、奈良、中世などの各時代の遺物が採集されており遺構の存在が想定される場所であるが、残念ながら今年度実施した調査では、それを明確にすることはできなかった。今後の調査に期待したい。

Ⅲ 北新町遺跡の調査



第9図 北新町遺跡調査区位置図

本年度において、北新町遺跡では、遺跡調査会が実施した府営住宅建替に伴う調査の他4箇所の調査を実施した。北新町遺跡は、古墳時代前期から中近世に及ぶ複合遺跡であると考えられているが、府営住宅調査区では古墳時代前期の大型掘立柱建物跡や鎌倉時代の建物跡の他、古墳時代前期の水田跡、奈良時代の河川などが検出されている。遺物も各時代にわたるものが出土しているが、特に注目さ

第5表 北新町遺跡（KSM）調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	北楯の里町179-2、182-1	620㎡	マンション建設	5月26日～8月21日	古墳時代の水田跡、奈良時代～中世のピット、近世の水路、中近世の遺物（瓦器、磁器、土師器、古墳～奈良の遺物（須恵器、土師器、石甕丁）	別途報告
2	中楯の里町地内	20.1㎡	流域下水道	8月1日～13日	近世の水路・井戸、露溝、中近世の遺物（瓦器、土師器、弥生土器、石鏡）	別途報告
3	中楯の里町	20.9㎡	下水道工事	11月20日～12月15日	近世の水路・中世のピット 瓦器が大量に出土	別途報告
4	北新町199-1	106.86㎡	共同住宅工事	平成元年 2月3日	浄化槽部分 土師器・磁器片	本書掲載

れるものとして、古墳時代前期末から中期前半にかけて、倉庫などに使用されていたと考えられる、板扉、鴨居などの戸口装置一式や、奈良時代の河川から出土した人面墨書土器がある。この調査によって、この地に古代集落、中世集落が存在したことが明らかになったわけであるが、遺跡の範囲は明確にされていないのが現状である。したがって、今年度実施した調査では、遺跡がどの様な広がりを持つのかに重点を置いた。

4区の調査

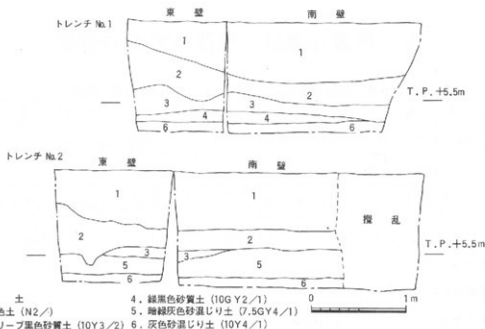
4区は府営住宅調査区の東側に位置しており標高は約6mを測る。共同住宅の浄化槽部分を2カ所調査した。調査は、浄化槽埋設の掘削深度に合わせて、G.L.-1.2mまでを対象として行った。

層序

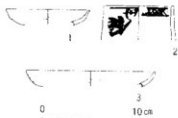
1層は盛土、2層の黒色土は旧耕土である。3層のオリーブ黒色土、4層の緑黒色砂質土は、中近世の遺物を含む層である。2～4層は北から南への傾斜が認められる。5層の暗



第10図 トレンチ位置図 (KSM88-4)



第11図 土層断面図 (KSM88-4)



第12図 出土遺物実測図
(K S M88-4)

小結

調査の結果、4区では、中近世の遺物包含層を確認することができた。これは、遺跡調査会の実施した調査結果の知見とも合致するが、それに比べると遺構、遺物の密度が希薄である。これは、調査の深度が浅いためであると考えられるが、少なくとも中世の時期に関しては、集落の中心からはずれる様である。府営住宅調査の西側で実施した1区の調査でも、弥生時代の河川、古墳時代前期の水田跡、中世の建物跡を検出しているものの、同様の傾向がみられる。それに比較すると南西で実施した2区の調査では、井戸、鋤溝が検出され、遺物も弥生時代前期～中近世まで各時期のものが出土している。

現時点では、明確に断定は出来ないが、これらの調査結果を考慮すると遺跡は、南西方向に広がる可能性が強い。

Ⅳ 福蓮寺遺跡、福蓮寺古墳の調査

第6表 福蓮寺遺跡・福蓮寺古墳(FKU)調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	野崎3-369他6	740.63㎡	露天資材置場		事前着工 土師器、須恵器片採集	
	野崎3丁目368-6	36.45㎡	個人住宅建設		事前着工	
2	野崎2丁目 452-1,452-2	135.34㎡	個人住宅建設	平成元年3月15日 ～16日	断面実測 瓦質土器、土師器片少量	本書掲載

いずれも、遺物散布地で、これまでも発掘調査が実施されることがなく、遺跡の内容、性格は不明である。

福蓮寺遺跡の調査(FKU88-1)

福蓮寺遺跡では今年度、資材置場造成の届出(後に住宅建設に変更)があったが、事前着工により調査を実施することが出来なかった。敷地内で、土師器、須恵器片を採集する

にとどまった。

福蓮寺古墳の調査（FKU-88-2）

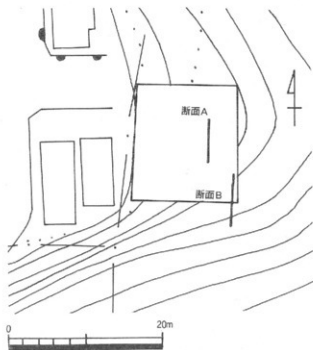
福蓮寺古墳でも住宅建設の届出があったが、事前着工により調査を実施できず、土層断面を実測したにすぎない。調査地点は、古墳の存在が推定される標高55mの独立丘陵の北側の浅い谷部分である。調査地点の標高は45mを測る。図に示した場所の断面を実測した。

断面A

1層は表土、2層は土師器の小片を含む灰黄褐色土、3層は土師器、瓦器片を含む黒褐色土である。2層を切り込む攪乱は、以前ここで土砂崩れのあったときに堆積した土で、この層にも遺物が混入する。4層は粗砂で、攪乱であろう。攪乱と3層の間に堆積する5、6層は、土砂崩れによる土が堆積する前に建物があった時の整地層で、土管やレンガの破片が含まれている。7層は土器片を含む灰褐色土。8～10層は、3層に見られる落ち込みの埋土であ



第13図 福蓮寺古墳・福蓮寺遺跡調査区位置図



第14図 調査区位置図（FKU88-2）

る。この落ち込みは、遺構の可能性もあり、3層上面に遺構面が存在したのではないかと考えられる。

断面B

1～3層までが表土。その下に堆積する4層のぶい黄褐色土は、土器片を含み断面Aの2層に対応する層である。5層の灰褐色土層は、同じ断面Aの3層、7層に対応する層であろう。

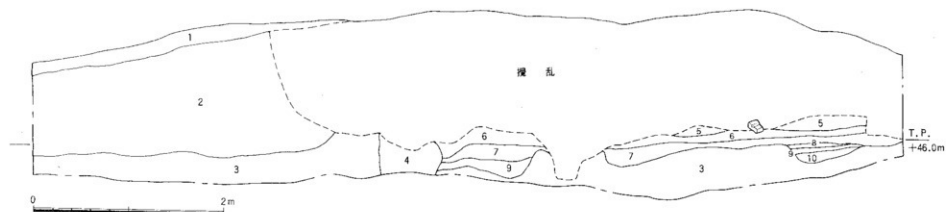
遺物

出土遺物はいずれも小片で、時期を限定することは出来ないが、瓦器を含むことから、中世のものであろう。

小結

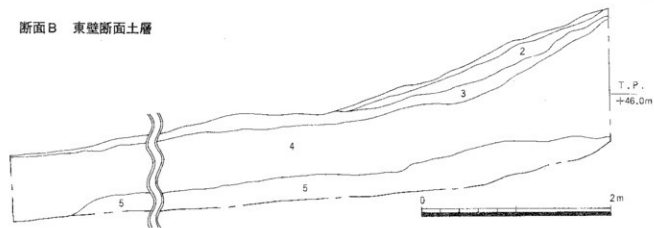
福蓮寺遺跡、福蓮寺古墳とも、今年度は十分な発掘調査を実施することが出来ず、依然として遺跡の内容、性格等は不明のままである。しかし、今回の調査では、中世の遺物を採集することができ、同時期の遺構が存在する可能性が強まったといえる。また分布調査では、福蓮寺遺跡内において石垣の跡が発見され、付近から、瓦質の羽釜や土器が採集されている。現時点では、断定できないが、城館が存在した可能性もあろう。

断面A 東壁断面土層



- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/1) | 6. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/3) |
| 2. 灰黄褐色土 (10YR5/2) | 7. 灰褐色土 (7.5YR4/2) |
| 3. 黒褐色土 (5YR3/1) | 8. 灰オリーブ色土 (5Y5/3) |
| 4. 黄褐色粗砂 (10YR5/6) | 9. 灰褐色土 (7.5YR4/1) |
| 5. 明黄褐色砂礫土 (10YR6/6) | 10. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/4) |

断面B 東壁断面土層

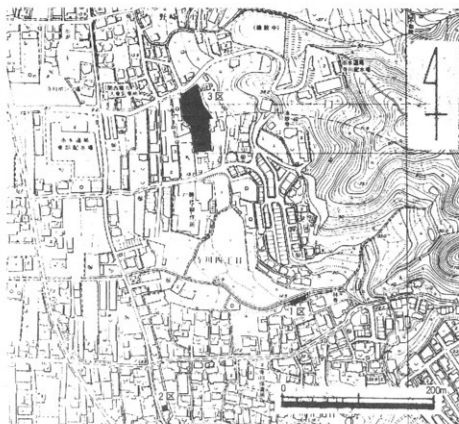


- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1. 褐色土 (10YR4/6) | 4. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) |
| 2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) | 5. 灰褐色土 (7.5YR4/2) (よくしまっている) |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/1) | |

第15図 土層断面図 (FKU 88-2)

V 寺川遺跡の調査

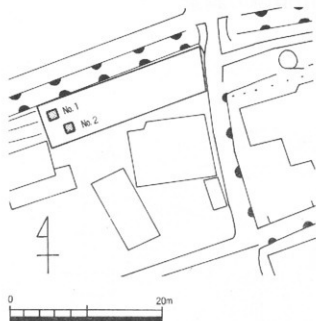
寺川遺跡では、3箇所の調査を実施した。そのうち1区と3区で中世の遺物包含層を確認している。



第16図 寺川遺跡調査区位置図

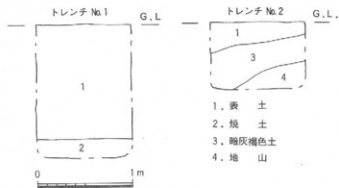
第7表 寺川遺跡（TRK）調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	寺川4丁目308	39.01㎡	個人住宅建設	11月16日	G L -1.2mで包含層焼土	本書掲載
	寺川4丁目308	41.73㎡	個人住宅建設	11月16日		
	寺川4丁目308	280.00㎡	個人住宅建設	11月16日		
2	寺川5丁目359-4	67.29㎡	倉庫建設 井戸掘削1	平成元年3月 14日、26日	遺物、遺構なし	本書掲載
3	野崎3丁目250他	2,239㎡	工場改、増築	平成元年 3月20日	G L -1.0mで中世の包含層	本書掲載



第17図 トレンチ位置図 (TRK 88-1)

表れる。遺物は表土及び暗灰褐色土から、染付、土師器などの小片が出土しているのみである。トレンチNo. 1で見られた焼土は存在しなかった。



第18図 東壁土層断面図 (TRK 88-1)

1区の調査

標高約20mの傾斜地で、住宅建設部分の2箇所トレンチ調査を実施した。

トレンチNo. 1

約1.2mの表土が堆積しており、それを除去すると赤褐色を呈する焼土が表れた。焼土からは、瓦質土器の小片が少量出土しているのみである。

トレンチNo. 2

約10～20cmの表土を除去すると暗灰褐色土が表れ、それを除去すると、カコウ岩質の地山が

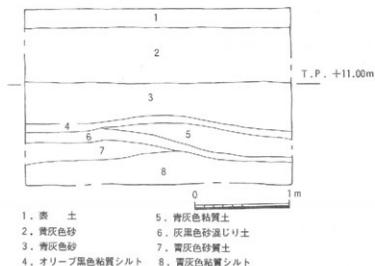
2区の調査

標高12mの住宅建設部分のうち、新たに井戸を掘削する部分を調査した。

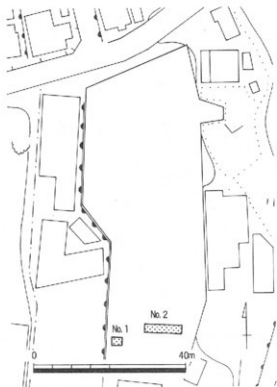
1層は表土、2・3層は黄灰色、青灰色の砂層である。2・3層を除去すると以下8層までシルト、粘質土、砂層の互層を成している。遺物は出土していない。



第19図 トレンチ位置図 (TRK 88-2)



第20図 東壁土層断面図 (TRK 88-2)



第21図 トレンチ位置図 (TRK 88-3)

3区の調査

3区は標高約16mの地点に位置し、堂山古墳群の存在する尾根が西へ伸びたその西端にあたる。工場建設部分に2箇所のトレンチ調査を実施した。

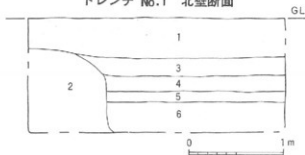
トレンチNo. 1

1層の盛土を除去すると、3層の旧耕土が表れる。以下6層まで水平堆積を示す。5層の青灰色粘質土、6層の青灰色砂質土から瓦器、土師器片が出土している。

トレンチNo. 2

土層の堆積状況は、トレンチNo. 1と同様の水平堆積を示す。1層は盛土、2層は旧耕土である。これを除去すると3層の青灰色砂混じり土が表れる。5層は瓦器、土師器などの遺物を含む黒灰色砂混じり土である。

トレンチ No.1 北壁断面



- | | |
|---------|-----------|
| 1. 盛土 | 4. 青灰色土 |
| 2. 黄褐色土 | 5. 青灰色粘質土 |
| 3. 旧耕土 | 6. 青灰色砂質土 |

第22図 土層断面図(1) (TRK 88-3)

小結

調査の結果、1区と3区で中世と思われる遺物包含層を確認することができたが、遺構を検出することはできなかった。当遺跡内ではこれまで中世の遺物が多く散布していることから、遺構の存在が予想されているものの、まだまだ不明の点が多い遺跡である。今後の調査に期待したい。



第23図 土層断面図(2) (TRK88-3)

VI 三箇遺跡の調査

三箇遺跡は、16世紀、布教のため日本へやってきたポルトガル人宣教師ルイス・フロイスの「日本史」に記述のある三箇城が存在すると考えられている遺跡である。

今年度は、下水道工事のための立坑部分2箇所についての調査を実施した。調査の結果、近世の染付、瓦が大量に出土した。残念ながら遺構では、城と関連づけられるものは検出できなかったが、杭列を伴った護岸施設を検出している。元来、当地は深野池に浮かぶ島であったところで、今回検出した杭列は、島の西縁部にあたると思われる。

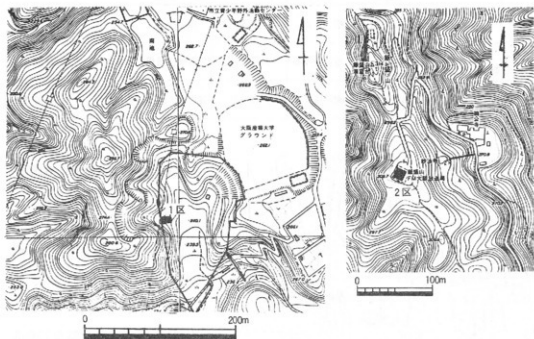


第24図 三箇遺跡調査区位置図

第8表 三箇遺跡（SNG）調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	三箇3丁目地内	17㎡ 2箇所	下水道工事	12月5日～ 平成元年1月 17日	護岸の杭列、近世の磁器、瓦、 瓦器、土師器	別途報告

VII 飯盛山城跡の調査



第25図 飯盛山城跡調査区位置図

第9表 飯盛山城跡（IMO）調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	大字竜岡1856	14,933㎡	グラウンド造成	9月26日 ～10月10日	瓦質土器・須恵器・土師器	別途報告
2	北条2377-16	56.50㎡	FM送信所	平成元年1月 9日～1月24日	飯盛城関係の標跡 中近世の土師器、磁器片	別途報告

飯盛山城は生駒山系の一支脈を成す標高約316mの飯盛山に造られた戦国時代初期の山城であり、城主であった三好長慶の河内支配の拠点となっていた。自然の地形をうまく利用して造られており、今もなお当時のものと考えられる石垣、堀、廓などを残している。今年度は2箇所目の調査を実施している。1区では33箇所目の試掘調査を行い、遺物の出土した地点約246㎡を対象に発掘調査を実施した。調査の結果、遺構は検出されなかったものの瓦質土器、須恵器、石鉄などの遺物が出土している。2区は本丸の跡地とされる地点で土塁施設と柵列、道の跡と考えられる遺構を検出した。

Ⅷ 北条遺跡の調査

第10表 北条遺跡（HJO）調査一覧表

No	所在地	面積	用途	調査期間	調査結果	備考
1	北条6丁目2327-1	330.00㎡	宅地造成工事	10月17日	包含層、遺構ともに無し	本書掲載
2	他	280.00㎡	公園造成工事	10月31日	包含層、遺構ともに無し	本書掲載



第26図 北条遺跡調査区位置図

北条遺跡は、昭和61、62年度に実施した北条小学校東側の丘陵地一帯の調査で、5世紀末—6世紀初頭の円墳2基、7世紀初頭の円墳1基が検出され、他に弥生時代後期の遺構や、有舌尖頭器、手焙り形土器などの遺物が出土している。また、北条小学校建設時にも後期古墳に伴う副葬品としての須恵器類が出土している。

1区の調査

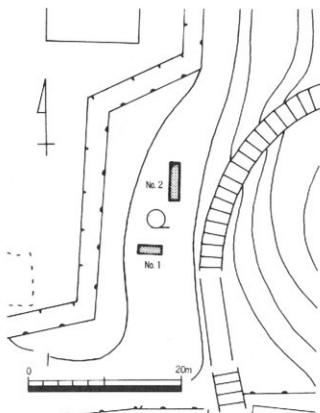
1区は遺跡内を流れる谷田川によって形成された小谷の低部付近にあたり、標高32mを測る。礫や岩を含む土で遺構、遺物共に確認することができなかった。

2区の調査

2区は北条小学校の東側、小学校建設によって切断された尾根上に位置しており標高約30mを測る。2箇所のトレンチ調査を実施した。トレンチNo.1 No.2とも約1.5~2mまで掘下げたが、コンクリート片やゴミなどが含まれる盛土であった。小学校建設時の盛土であろう。しかし、その盛土からも須恵器、土師器、瓦器の小片が出土することから、付近にも遺跡が存在すると考えられる。

小結

残念ながら今回の調査では十分な成果を得ることができなかった。この付近一帯はここ10数年の間に宅地化が進み、丘陵のかなりの高所まで住宅が立ち並んでいる。これらの開発のために、かなりの遺跡が調査も経ないまま破壊されていったと考えられ、今回の調査結果でそれを十分に痛感させられた気がする。

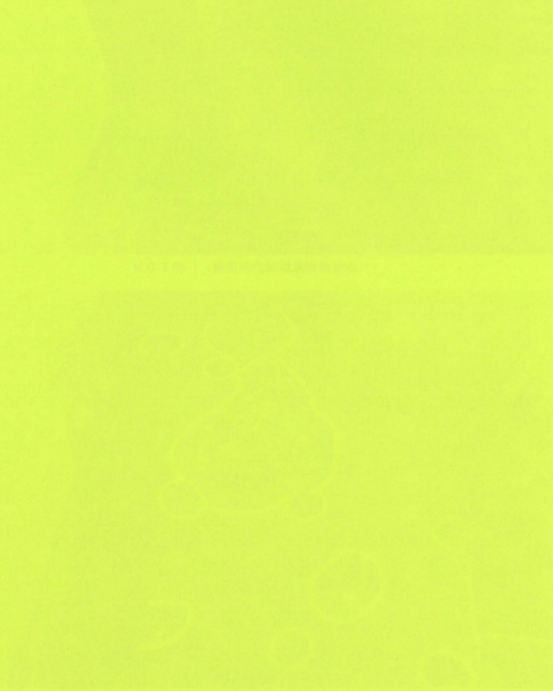


第27図 トレンチ位置図 (HJO88-2)

註

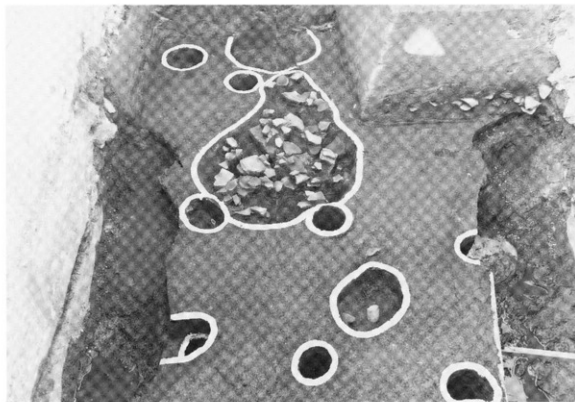
- (1) 東宏「三、弥生時代」『大東市史』大東市教育委員会 (1973)
- (2) 大東市北新町遺跡調査会「大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書」(1986)
- (3) 松岡良憲氏の教示による
- (4) (2)に同じ
- (5) 三宅正浩、黒田淳他「寺川・北条遺跡・発掘調査報告書」(1987)
大東市教育委員会「北条遺跡Ⅱ現地説明会資料」(1987)

版 圖





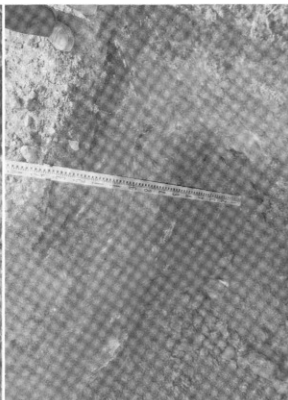
NG T 88-1 (弥生時代前期溝検出状況)



NG T 88-3 (弥生時代前期遺構面検出状況)



NGT 88-4 (トレンチ No. 1)



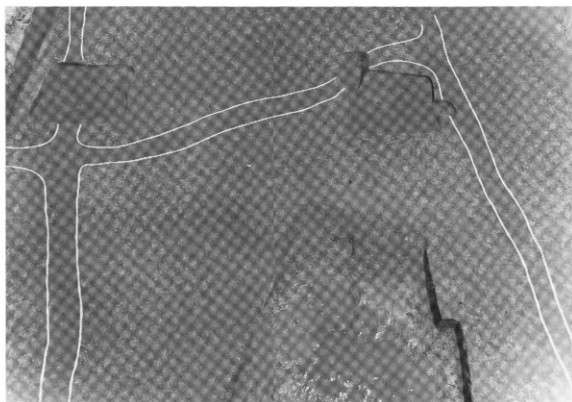
NGT 88-4 (トレンチ No. 2)



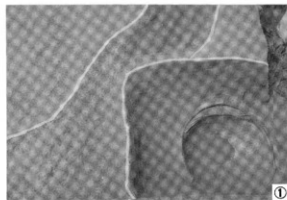
NGT 88-5 (水路検出状況)



同 左



K SM88-1 (古墳時代水田)



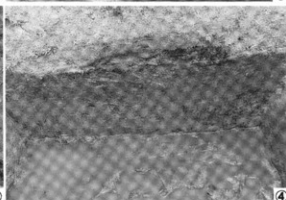
①



②



③



④

1. K SM88-2 (近世井戸)

3. K SM88-4 (トレンチNo.1)

2. K SM88-3 (中世ビット)

4. K SM88-4 (トレンチNo.2)



①



②



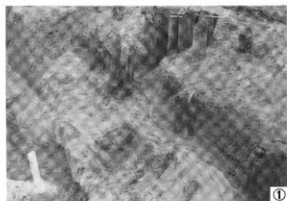
③



④

1. 2 FKU88-2 (断面A・断面B)

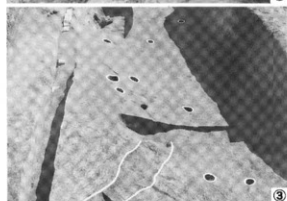
3. 4 TRK88-3 (トレンチNo.1・トレンチNo.2)



①



②



③



④

1. 2 SNG88-1 (トレンチNo.1杭列)

3. 4 IMO88-2 (土壘、構列検出状況)

